開設20周年特別企画
第73回ミニ企画展示

2012年5月19日
20周年
SINCE 1992
世界初の
“大学立の
平和博物館”

わたしたちにできること

We can do something

学生企画

～震災1年を振り返って

2012年4月20日(FRI)→7月15日(SUN)

〈立命館大学国際平和ミュージアム2階 ミニ企画展示室〉

このたびの企画展「わたしたちにできること～震災 1 年を振り返って」は「あの日」を共に想い起こす「協働想起」の機会だ。大阪大学の渥美公秀教授の言葉を借りるなら、協働想起とは「語るに語り得ない、言葉にならない想い」に寄り添う行為である。少なくとも今回の展示では、各地から駆けつけたボランティア等によって温かい場が生まれた楽しみに、多くのものを喪った哀しみに、ただ呆然とすることしかできなかった怒りに、また絶望の只中に希望を見いだした人の喜びに、鑑賞者の側からの一方通行かもしれないが、思いを馳せる機会となろう。

東日本大震災は、地震による直接の被害に加え、その後の津波や液状化現象、さらには福島第一原子力発電所事故などがもたらされた。この大規模・広域・複合災害は、想定の範囲どころか想像の範疇を超えていた。かつて立命館大学の文学部教授も務められた哲学者・梅原猛氏が、地震発生から 1 ヶ月も経たない 4 月 5 日に、東日本大震災は「近代文明の悪をあぶりだした」と述べ、「文明災」と称したことにもうなずける。

振り返れば「ボランティア元年」と言われた 1995 年、「あの日」から 16 年のときを経て、やはり今回も現地に駆けつけたボランティアは多い。当初は情報が錯綜し、物資も不足する中で、「今、行っても現場に迷惑がかかるのでは」と、現地入りを躊躇した人たちも少なくなかった。それでも、長きにわたる復興への歩みに向き合い、寄り添った多くの人々がいる。今回の展示では、特に学生が個人ではなく集団として現地に関わり続けた軌跡が明らかとされている。

他地域から駆けつける学生ボランティアにできることは限られているかもしれないが、限られているからこそ、制約の中で、そっと人々に寄り添うことが可能だ。実際、Happy Factory の展示からは、同一ではなくとも共有できる悲しみや苦しみから、遠く離れた国・地域が響き合う関係が結ばれたことがわかる。また、シャンティ国際ボランティア会では、居住地や被災状況の違いを越えて、同世代なる共通点をもとに同時代を生きた痕跡が映像として遺された。そして IVUSA では「おっちゃん、おばちゃん × 学生」の展示名から明らかなように、活動を通じて被災者と支援者とが匿名の関係から「あなたとわたし」の関係へと変化した軌跡を読み取ることができる。

今回の展示は、彼らが現場で紡いだ物語（his story）を垣間見る機会であると同時に、震災の記憶を歴史（history）の 1 ページとして語り継いでいく手がかりともなるだろう。展示品から見出せる物語への想像力を駆り立てつつ、今、このときも現地で日常の暮らしがあることに < いのち > の尊さが寄せられることを願うところである。

山口 洋典氏
立命館大学サービスラーニングセンター副センター長
立命館大学共通教育推進機構准教授

第1期 4月20日(金)→5月20日(日)

スリランカからの贈り物
～平和の祈りの木を咲かせよう～

団体名
Happy Factory

第2期 5月26日(土)→6月17日(日)

震災から一年。
気仙沼から同世代へ

団体名
公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会

第3期 6月23日(土)→7月15日(日)

被災者×ボランティア？
いいえ、宮城のおっちゃん
おばちゃんこども×京都の学生

団体名
NPO 法人
国際ボランティア学生協会 IVUSA（イビューサ）

主催　立命館大学国際平和ミュージアム
開館時間　9：30～16：30（入館は16：00まで）
休館日　月曜日 ※展示替期間、ミニ企画展示室は閉室
参観料　大人400円（350円）、中・高生300円（250円）、小学生200円（150円）
＊（　）内は 20 名以上の団体料金です。＊先に地階受付で見学資料費をお支払いください。＊立命館大学で学ぶ人、働く人は無料です。

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

わたしたちにできること ～震災1年を振り返って

We can do something.

2012年4月20日(FRI)-7月15日(SUN)

香山侑美　鈴木伸也　西浦　望

第1期 4月20日(金)→5月20日(日)

「スリランカからの贈り物～平和の祈りの木を咲かせよう～」

日本では東日本大震災・津波が2011年に起きましたが、2004年にはスマトラ沖地震の津波がスリランカを襲いました。年月を経ても消えることの無いスリランカの子どもたちの鮮明な当時の記憶を描いた絵画や、日本への応援メッセージを「国境を越えたエール」として日本の皆様へ届けます。大災害からの復興に向けて、国境を越えて励ましあう関係が築かれている事実を、震災後のHappy Factoryの活動報告を通じて体感してください。

▲スリランカからの応援メッセージ

団体名 **Happy Factory**

2011年3月結成。スリランカと日本、双方向の交流を図り、互いの理解を深める場を生み出すことを目的として活動しています。東日本大震災発生に際し、スリランカの子どもたちが日本のために描いた絵の展覧会を各地で開催。立命館大学生が中心となり、Happy Factory・京都を組織しています。

メンバー 企画代表：香山侑美（産業社会学部）
草下直輝・西口萌美・吉田知准・山下雄大（産業社会学部）

第2期 5月26日(土)→6月17日(日)

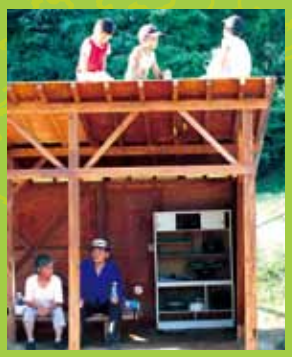
「震災から一年。気仙沼から同世代へ」

「復興、それは一人一人の歩みによって築き上げていくもの。」2011年3月11日、東日本を襲った未曾有の大震災。あの日、言葉を失う惨状を目の当たりにし、誰もが立ち尽くしました。それから1年。今も東北は復興の真っ只中にあります。震災以降、現地入りした学生がどのように思い、行動してきたのか。彼らを駆り立たせたのは一体何だったのか。被災地、宮城県気仙沼市を中心に、彼らの活動と「気仙沼の20代の"今"を描く」ビデオプロジェクトを紹介します。

団体名 公益社団法人 **シャンティ国際ボランティア会**

アジアで教育・文化支援を行うNGO団体です。1981年に設立し、95年の阪神・淡路大震災以来、被災地での活動を開始しました。2011年3月16日に東日本大震災の被災地に入り、以降、宮城県気仙沼市や岩手県で支援活動を行っています。

メンバー 企画代表：里見容（産業社会学部）
宇野奈菜（国際関係学部）・鈴木伸也（国際関係学部）・萩野麻美（国際関係学部卒業）



◀気仙沼市大谷地区の子どもの遊び場

▲気仙沼市小泉地区

第3期 6月23日(土)→7月15日(日)

「被災者×ボランティア? いいえ、宮城のおっちゃんおばちゃんこども×京都の学生」

▲作業のようす

「体力と元気、若者らしさで東北を元気にしたい」この言葉を胸に私たちは東北で災害救援活動を行ってきました。被災されたお宅のがれき撤去や、ヘドロかきをさせていただきながら、様々なこと見て、そしていろんな方と出会ってきました。決してテレビを通しては分からない、現地の息づかい、被災地の復興への歩み。それらを震災でダメージを受け、修復された大漁旗や写真の数々から感じていただければと思います。人と人が支え合ってこそ成り立つ、復興に向かっていく姿をご覧ください。

▲宮城のおばちゃんと

団体名 NPO法人 **国際ボランティア学生協会 IVUSA**（イビューサ）

1993年に設立した学生主体のボランティア団体です。「熱意は人を動かし社会を動かす」をコンセプトに、国際協力、地域活性化、環境保護、災害救援の4つの柱で活動を展開しています。東日本大震災に対しては18回の派遣を行ってきました。

メンバー 実施代表：西浦望（産業社会学部）
足立真希子（産業社会学部）・内野考大（産業社会学部）・内山琴絵（文学部）・里実沙紀（法学部）・出口裕加里（国際関係学部）
企画者：新原稔貴（政策科学部）

※お車でのご来館はご遠慮ください。

〔交通案内〕

JR・近鉄京都駅より	JRバス、市バス50	阪急電車烏丸駅より	市バス51・55
JR・地下鉄二条駅より	市バス15・55	阪急電車西院駅より	市バス205
地下鉄北大路駅より	市バス204・205	JR円町駅より	市バス15・204・205
京阪電車三条駅より	市バス12・15・59		

市バス=12・15・50・51・55・59にて「立命館大学前」下車 / 徒歩5分
市バス=204・205にて「わら天神前」下車 / 徒歩10分

立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL.075-465-8151　FAX.075-465-7899
http://www.ritsumei.jp